

蒲原・御殿山

御殿山は、東海道の宿場町として栄えた蒲原地区にある山で、徳川家康がこの山を背につくらせた「蒲原御殿」が、名の由来です。新蒲原駅から近く、たくさんのソメイヨシノの木が植えられていることから、サクラの名所として知られています。

しょくぶつ

● シラヤマギク



キクの仲間、山地の乾いた草地や道端に生える多年草です。8～10月に白色の花を咲かせます。

● キブシ



落葉低木で、山地の林まわりなどの明るい環境に生えています。3～4月に房状の淡黄色を咲かせます。

● オカタツナミソウ



雑木林の林縁部などに生育するシソの仲間の多年草です。5～6月に唇形の淡紫色の花を咲かせます。

● キンミズヒキ



道端や草地に生えるバラ科の多年草で、7～10月に黄色の花が総状に集まって咲きます。

● ハナミョウガ



山地の林内に生えるショウカの仲間の多年草です。5～6月に紅色の条線の入った白い花を咲かせます。

● クサイチゴ



高さ20～60cmの林のふちや草地に生える草状の落葉小低木です。実は赤く熟すと食べられます。

● ヒメクグ



水田周りや池沼の縁に生えるカヤクサの仲間の多年草です。7～10月に花茎の先端に、くす玉のような穂を1個つけます。

● クサギ



日当たりのよい原野などによく見られるシソ科の植物です。葉に悪臭があることからこの名前があります。

● タンキリマメ花 (左) と実 (右)



マメ科のつる性多年草です。海岸～低山地の草原、林縁などに生えられます。

● フウトウカズラ



コショウ科のつる植物です。コショウに似た香りをしますが、あまり辛くなく、食用にはされていません。

● ヤマハッカ



日本列島を含むアジア東部に広く分布するシソの仲間の多年草です。9～10月に列状に青紫色の小さな花を咲かせます。

● ヘクソカズラ



つる性の多年草で、葉・茎を傷つけると悪臭を放つのでこの名があります。7～9月に中央が紅紫色で、白い筒状の花を咲かせます。

● ソメイヨシノ



エドヒガン・オオシマザクラの雑種起源とされています。近年、各地にあるソメイヨシノは人の手で増やしたものです。

● マルバウツギ



初夏に小さな白い花をつける低木です。他のウツギ類よりも丸い葉を持つことから、この名が付いています。

● ヤブミョウガ



ツクサの仲間の多年草で、関東以西の林地内に生育し、8～9月に白色の花を咲かせます。ミョウガの葉と似ていますが、ミョウガとは別の仲間です。

● ムラサキシキブ花 (左) と実 (右)



北海道南部～沖縄まで広く落葉低木で、果実が紫色で美しく、鑑賞用に栽培されています。

● アリドオシ



落葉低木で、とげが細長くアリの類も刺し貫くという語源と、とげが多数ありアリの類のような小さい虫でないと通り抜けられないという語源とがあります。

● ヤマユリ



日本特産のユリで、近畿地方以東の本州の山地に生育します。秋～春に地下の鱗茎を掘り採り、食用・薬用に利用されます。

● コクラン



本州、四国、九州の主に常緑樹林下に生育するラン類。6～7月に暗紫色の花を咲かせます。

● ヒトリシズカ



落葉広葉樹林の林縁等に生える多年草です。4～5月に穂状の白い花を咲かせる1本の茎がみられることから、「一人静」と呼ばれます。

● ウラシマソウ



サトイモの仲間です。4～5月に花が咲き、花からたれる糸のようなものを浦島太郎の釣糸に見立てています。

● ヤブマメ



北海道～九州の林縁等に生えるつる性の一年草です。8～10月に蝶形の淡紫色の花を咲かせます。

どうぶつ・とり

● ホトトギス



夏鳥。全長25cmくらいで、主にウグイス科の鳥に托卵します。鳴き声は「特許許可局」と聞きなします。

● ムクドリ



冬鳥。全長24cmくらいの小鳥で、「キュル、キュル」と騒がしく鳴きます。人家のまわりや往路樹で1年中見られます。

● アオバト



留鳥。全長33cmくらいで、黄緑色をしたハトの仲間です。「アーオ、アーオ」と物悲しい声で鳴きます。

● イソヒヨドリ



留鳥。全長20cmくらいで以前は海岸地帯に生息していましたが、近年は都市部でも繁殖しています。オスは青色で、メスは褐色です。

● リウキュウサンショウクイ



留鳥。全長20cmくらいで、ほっそりとしています。近年、静岡県内でもよく見られ、飛ぶ姿から「ヒリ、ヒリ」と鳴きます。

● キセキレイ



留鳥。全長20cmくらいの小鳥で、腹部に黄色がまじります。主に山地の川沿いで1年中見られます。

● サンコウチョウ



夏鳥。オスは尾がとて長く、「月・日・星、ホイホイイ」と鳴くので「三光鳥」と言われます。静岡県鳥に指定されています。

● ハクセキレイ



留鳥。全長21cmくらいで、平地から山地の森林以外のさまざまな場所で見られ、尾を振りながらエサの虫を探します。

● ニホンジカ



大型の哺乳類で、オスは立派なツノを持っています。近年数が増え、樹木や植物の被害が多発しています。

● コウベモグラ



日本特産種で、体長16～20cmくらいで、地中にトンネルを掘って生活します。ミミズや昆虫を食べます。

● ニホンカモシカ



ウシ科の特別天然記念物ですが、最近数が増え、樹木や植物の被害が多発しています。

● ニホンノウサギ



腹部は白く、全身茶色です。主に夜に活動し、植物の葉や芽、枝などを食べます。

● ニホンテン



イタチの仲間で、毛色は夏は茶色で冬は黄色です。肉食性で小動物が主体ですが、果実なども食べます。

● ニホンカナヘビ



全長20cmくらいで、山地から人家まわりにすんで見かけます。小さな虫やクモなどを餌にします。

● ニホンイタチ



40～55cmくらいの中型の哺乳類です。餌は、主にネズミや昆虫で、水に入り魚をとることもあります。

● モリアオガエルの卵塊



モリアオガエルはオスとメスで、水上の木の枝に泡状の卵塊を作ります。卵塊の中には300～800個の卵があります。

むし

● アカボシゴマダラ 特定外来種



中国の個体が2000年代の初め関東地方に放たれ、本県でも平野部全域に広がっており、丘陵や公園などで5～10月に見られます。

● ジャコウアゲハ



はねを広げると100mmくらいのアゲハチョウの仲間です。オスは黒色で、メスは褐色です。ウマノスズクサを食草とします。

● ナガサキアゲハ



日本では最大級のチョウで、以前、静岡では見られなかったが、近年はミカン畑周辺によく見られるようになってきました。

● ナミアゲハ



初春から初夏まで見られる大型のチョウです。幼虫はミカン科の植物を食べるので、メスはその間に産卵します。

● クロアゲハ



市街地をはじめ低山地で普通に見られる黒いアゲハチョウで、4～10月まで成虫が見られます。

● コミスジ



黒地に白い3本のスジがあり、前翅の長さは25mmで、春から秋まで雑木林の林縁で見られます。

● モンキアゲハ



日本最大級のチョウで、後ばねに黄白色の大きな斑紋があるのが特徴です。幼虫はミカン科の葉が好きです。

● テングチョウ



山地から平地の雑木林の周辺にすみ、頭部の触角の内側に前に伸びる突起が、天狗の鼻のように見えることからこの名前があります。

● アオマツムシ



体長20～25mmの紡錘形の緑色の体が特徴。ツバキやサクラの樹上で「リーリー」と大きな甲高い声で鳴きます。

● ツクツクボウシ



体長30mmくらいで、鳴き声が「ツクツクボウシ」と聞こえるところからこの名前があります。晩夏から初秋によく発生します。

● ニイニイゼミ



体長20mmくらいの小型のゼミで、「チー・ジー」と繰り返し鳴きます。6月下旬から7月に発生します。

● ミンミンゼミ



体長33～36mmくらいのゼミです。比較的新やかな色をして、はねは透明です。「ミンミンミンミン」と鳴くことで知られます。

● クマゼミ



体長60～70mmくらいの大型のゼミです。背中は黒く、羽根は透明です。「シヤンシヤンシヤン」と大きな声で鳴きます。

● アキアカネ



はねを広げると60mmくらいのトンボで、ナツアカネと違って、頭や胸は赤くありません。成虫は6～12月に見られます。

● アブラゼミ



体長56～60mmくらいのクマゼミより少し小さいゼミです。体は黒褐色で羽根も褐色です。木の樹液を吸います。「ジージー」と鳴きます。

● ウスパキトンボ



はねを広げると80mmのトンボです。名前通り、はねが薄く、体は黄褐色で、トトンボです。世界で最も広く分布しています。